

第4章 設計図面記載要領

4-1 設計図面記載要領

4-1-1 平面図

1. 作図に当たっては、計画線の可否を判定するに足る範囲の地形及び既設の工作物を詳細に画くものとし、等高線、等深線（年月日）、流向のほか、特に関連をもつところの田、畑、宅地、原野等の各種地目及び効果の判定上必要な道路、橋梁、人家工場、電柱、必要に応じて地下埋設物等の施設物の標示をするとともに、当該計画の基準となった方位、水準点の位置、標高並びに各測点を記入するのを原則とする。

また、砂防ダム等にあつては、崩壊地の位置、大きさ及び貯砂地域を併せて記入する。

2. 測点の配列、方向は次によるのを原則とし、図面の左端を起点とし、右方向に測点が順序よく配列されるようにすること。

(1) 河川の堤防、護岸等は、下流を起点として上流に向かって追番号とすること。

ただし、水制の横工は、河岸から流心に向け追番号をつけ、縦工は、下流から上流へ向かって追番号とする。

(2) 海岸堤防、離岸堤は、海岸名（沿岸名）ごとに起点から終点に向かって追番号とすること。

(3) ダムは、ダム軸又はダム中心線の左岸側を起点とする。

(4) 砂防ダムは、下流を起点とし、上流に向かって追番号とする。

(5) 流路工は、下流を起点とし、上流に向かって追番号とする。

(6) 道路は、道路の起点から終点に向かって追番号とすること。

(7) 港湾は、起点から終点に向かって追番号とする。

4-1-2 横断面図

1. 河川及び河川ぞいの道路横断面図には、次の水位を必ず記入すること。

(1) H W L（計画高水位）...道路において不明の場合は、既往最高水位とする。

(2) M L W L（平均低水位）...護岸、床固め、水制等には必ず明記する。

(3) D W L（災害水位、年月日）...災害復旧関係図のみ被災年月日及び最高水位を記入する。

2. 海岸及び海岸ぞいの道路横断面図には、次の潮位を記入する。

(1) H H W L 既往最高潮位

(2) H W L 朔望平均満潮位

(3) L W L 朔望平均干潮位

(4) D W L 年月日、災害潮位（災害復旧関係図のみ記入）

(5) M S L 平均水位

(6) 計画潮位..... 計画潮位

3. 港湾工事の横断面図には、次の水位等を記入する。

(1) C D L 基本水準面

(2) H H W L 既往最高潮位

(3) H W L 朔望平均満潮面

(4) L W L 朔望平均干潮面

(5) D L 工事用基準面

(6) M L M L 平均干潮面（平均水面とL W Lとの1 / 2の水面）

- (7) 計画水深(けい留施設・水域施設)
4. 砂防ダムの横断面図には、次の水位等を記入する。
- (1) H W L (計画高水位)
 - (2) 計画堆砂高
 - (3) 余 裕 高
 - (4) 砂防指定地幅
5. 流路工の横断面図には、次の水位等を記入する。
- (1) H W L (計画最高水位)
 - (2) 計画河床高
 - (3) 余 裕 高
6. ダム貯水池ぞいの道路横断面図には、次の水位を記入する。
- (1) 設計洪水位
 - (2) 常時満水位
7. ダムの標準横断面図には、次の水位等を記入する。
- (1) 設計洪水位 (D W L)
 - (2) サーチャージ水位 (S W L)
 - (3) 常時満水位 (N W L)
 - (4) 制限水位
 - (5) 最低水位 (L W L)
8. 横断面図の視方向は、次によるのを原則とする。
- (1) 河川、堤防、護岸等は、上流から下流方向をみる。(左岸が左側)
河川横断構造物(床正工、堰等)は、左岸から右岸をみる。(左側が下流)
また、ひ門、ひ管は、左岸から右岸方向をみるのを原則とし、水制及び取付道路は、起点から終点をみるものとする。
 - (2) 海岸は、起点から終点方向をみるものとする。
 - (3) 砂防ダム及び流路工は、下流から上流をみる。(左岸が右側)
 - (4) ダムは、本体については右岸から左岸方向をみる(左側が上流)ものとし、余水路、水叩、導流壁等は上流から下流をみるを原則とする。
 - (5) 道路は、起点から終点方向をみること。
 - (6) 港湾は、起点から終点方向をみること。
9. 横断面図の記載等
- (1) 横断間隔が前後測点断面と近接する役クイ断面は記載を必要としない。
 - (2) 設計図の横断幅は設計必要幅とし、不必要な断面幅分は、トレースの折カットする。
(ただし、測量成果品の横断原図は、設計図書等に示された幅とする)
 - (3) 横断面図に示す切土、盛土等は、それぞれ(m²)単位で少数一位止まりとし、土羽長等は(m)単位で少数一位止まりとして、ノリ面に平行して記入するのを原則とする。
 - (4) 土質調査等による土工積算区分等を明記すること。
(土質境界線・岩盤線)
10. 横断面図の配置は、次の図によるものである。

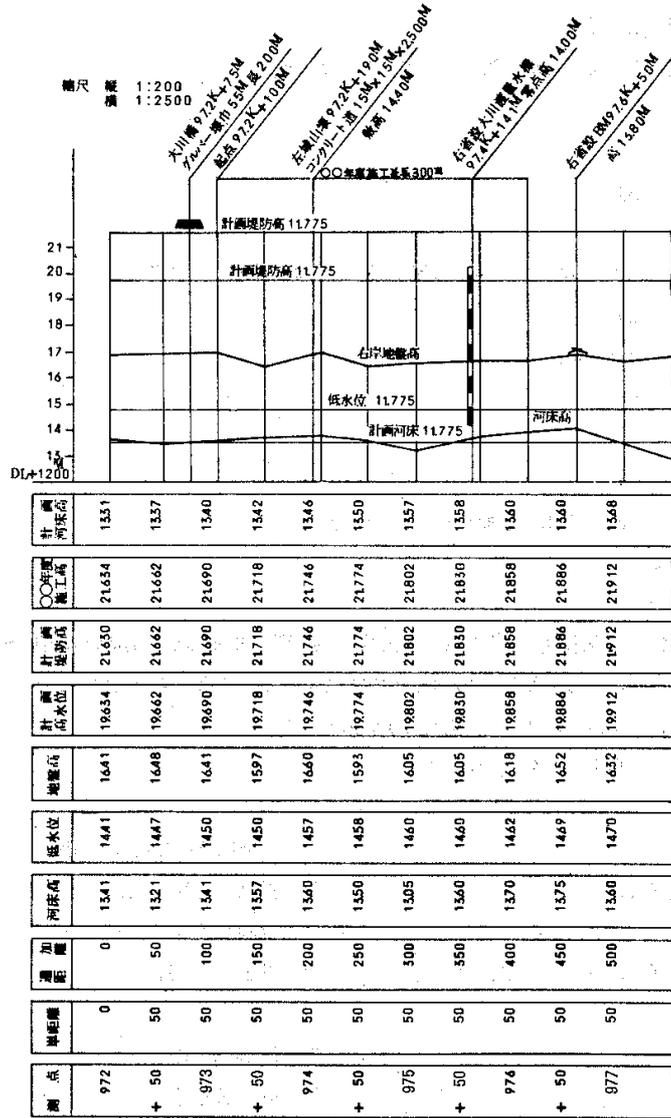
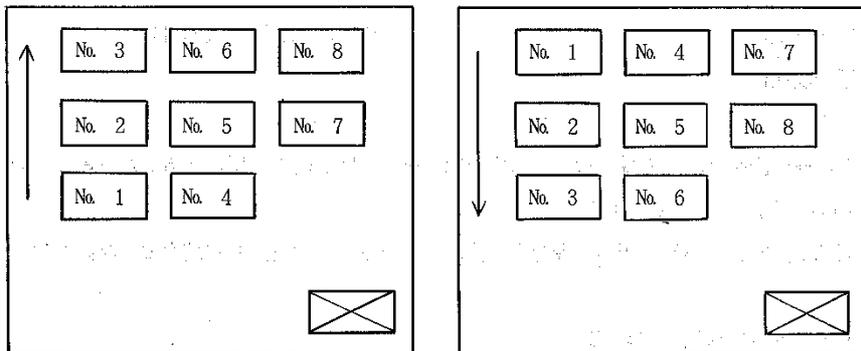


図 4 - 1 河川縦断面図の記載例



道路・港湾

砂防(ダム)・砂防(流路工)・河川・海岸・ダム

図 4 - 2 横断面図の視方向

4 - 1 - 3 縦断面図

縦断面図には、次の事項を下段から順次記入するものとする。

1. 河川，流路工

- (1) 測 点
- (2) 単 距 離
- (3) 追加距離
- (4) 河床高は最深高で記入する。(流路工は，河床勾配を記入する)
- (5) 平均低水位
- (6) 左又は右岸地盤高
- (7) 計画高水位
- (8) 計画堤防高
- (9) 計画河床高
- (10) 計画高水勾配(流路工は，計画河床勾配とする)
- (11) 計画河床勾配
- (12) 計画堤防勾配
- (13) 既存施設，橋梁，取水堰，用水路(床，天端)，護岸等の指示高及び構造物の名称を記入する。
- (14) 仮ベンチマーク位置は，図上に明示し，引出線をもってその標高を記入すること。
- (15) 護岸の場合は，法留天端高，護岸天端高を記入すること。
- (16) 必要に応じ計画高水敷高を記入すること。

2. 砂 防

- (1) 測 点 (2) 単 距 離 (3) 追加距離 (4) 河 床 高 - 最深高を記入する。
- (5) 現河床及び計画河床勾配 (6) 計画本堤敷高 (7) 計画水通し天端高 (8) 計画ダム高H

3. 海 岸

- (1) 測 点 (2) 単 距 離 (3) 追加距離 (4) 地 盤 高 (5) 朔望平均干潮位
- (6) 朔望平均満潮位 (7) 計画潮位 (8) 計画基礎高 (9) 計画天端高 (10) 年度施工高
- (11) 当年度施工区間(赤書)

4. ダ ム

ダムサイトの縦断面図は，ダム軸又は，ダム中心線にそった断面図で河川の上流側からみたものとして(左が左岸側)，次の事項を記入するものとする。

- (1) ダム天端高，非越流部天端標高，設計洪水水位，サーチャージ水位，常時満水位，制限水位，最低水位及び余盛高
- (2) 現地盤線，推定岩盤線及び掘削線
- (3) ダム堤長及びダム高さ
- (4) ゲート，余水吐，取水口，グラウト孔，その他の位置，形状寸法

5. 道 路

- (1) 片勾配すりつけ図 (2) 曲率図 (3) 測 点 (4) 単 距 離 (5) 追加距離
- (6) 地 盤 高 (7) 計 画 高 (8) 切 取 り (9) 盛 土
- (10) 曲線を挿入しない高さ (11) 当年度施工区間

4 - 2 図面の着色要領

4 - 2 - 1 設計成果時の図面

委託業務の設計成果品の納品にあたっては、平面図（陽画焼図）1部を表4 - 1～表4 - 4により着色することを原則とする。

(1) 河川・築堤

表4 - 1

切 土	盛 土
橙 色	緑 色

(2) 河川・護岸

表4 - 2

切 土	盛 土	護岸工
橙 色	緑 色	赤 色

(3) 河川・構造物

表4 - 3

切 土	盛 土	構造物	側溝水路	取付道路
橙 色	緑 色	赤 色	水 色	茶 色

(4) 道路関係

表4 - 4

切 土	盛 土	構造物	側溝水路	地下埋設物	現 道
橙 色	緑 色	赤 色	水 色	紫 色	茶 色

4 - 2 - 2 設計書に添付する図面

次表により図面着色することを原則とする。

次により図面着色することを原則とする。

1 . 道路・河川・ダム・砂防・地すべり・急傾斜・公園・下水・街路事業

(1) 当初設計

平面図・縦断面図・標準横断面図・一般図においては、当該工事契約区間を旗上げ（施工延長工事区間）のうえ、旗上げ及び実施区域を赤着色するものとする。

又、その他の設計図面及び既済工区の着色は必要において適宜実施するものとする。

(2) 変更設計

当初設計で赤着色したものに対し、変更増は赤着色に増、変更減は黄着色とする。

表4 - 5

		設計書添付設計図		仕様書添付設計図
		平面・縦断・標準横断図等	その他	
当	初	設計	赤	設計書に準じる
変更設計	変更なし	赤	必要に応じて適宜着色	
	変更増	赤(増)		
	変更減	黄		

(3) その他

数量算出にかかる出来形以外の表示(数量計算, 断面積, 床掘線等)は「参考事項」である旨, 判例で明記する。

2. 港湾事業

港湾事業に係る着色は, 次による。

表4 - 6

施工年度		着色
前々年度まで		黒
前年度		黄
当年度	前回設計同様施工する部分	赤(緑で粹取り)
	設計変更により新たに増工となる部分	赤
	設計変更により新たに減工となる部分	緑
次年度以降		青
他事業		茶

3. 用地補償関係図面の着色(補助申請, 精算設計書添付図面)

(1) 工事平面図の着色

表4 - 7

	道路局	河川局	都市部
全て完了のもの 前年度 (国債支出分を含む)	黒斜線	黒斜線	黒
当年度 {	一般会計	黄斜線	青
	国債	赤斜線	赤
翌年度以降	桃斜線	橙斜線	緑
	—	緑斜線	—

(2) 丈量図の着色

表4 - 8

	道 路 局	河 川 局	都 市 局
全て完了のもの 前 年 度 (国債支出分を含む)	黒	黒	黒
当年度 { 一般会計 { 国 債	赤	赤	赤
	桃	橙	緑
翌年度以降	—	緑	—

(3) 移転家屋の工法別着色区分表 (工事用図面)

表4 - 9

	道 路 局		河 川 局		都 市 局	
	記 号	着 色	記号	着 色	記号	着 色
解体移転	☒ (解移と表示)	前年度まで完了済……………黒		前々年度まで完了のもの……黒		前々年度まで完了のもの……黒
解体改造	☒ (解造と表示)		道路局と同じ	前 年 度…黄 (国債含む)	道路局と同じ	前 年 度…青 (国債含む)
曳 家	○→	当 年 度…緑 (一般会計)		当 年 度…赤 (一般会計)		
除 却	☒ (除と表示)			当 年 度…橙 (国 債)		当 年 度…赤 (一般会計)
切取補償	☒ (切補と表示)	当 年 度…桃 (一般会計)		翌年度以降…緑		当 年 度…緑 (国 債)

4 - 3 変更工事の図面記載要領

- (1) 構造に著しい変更があり，原設計図を使用することが不適当な場合は，新しい図面を作成し，原設計図面には「元設計」と明示する。
- (2) 設計変更図面は，平面図および縦断面図，標準横断面図以外は，変更部分のみ図面とする。
- (3) 設計変更図面には，「第 回変更」を赤で表題欄上に明示する。

4 - 4 工種別図記載要領

4 - 4 - 1 河川関係

1. 掘削

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
掘	位置図 1/50,000	施工箇所, 工事名	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	平面図 1/500~ 1/2,500 (1/3,000)	施工形状, 延長, 仮橋位置, 距離標, 測点, BM, 流向, 計画法線, (低水路, 堤防), 地盤調査位置	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 測点は下流から上流に向かって50m毎の追番号とし, 図面には測点 No を記載する。
	縦断面図 縦1/100 横1/500~ 1/1,000 または1/2,500 (1/3,000)	測点, 単距離, 追加距離, 河床高, 地盤高, 平均低水位, 計画高水位, 計画堤防高, 計画河床高, 掘削高, 施工延長, 構造物の位置, 名称, 寸法 ○○年度施工高 当年度施工区間 (朱書)	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 工作物等がある場合は天端および基礎高を図示のこと。
	標準横断面図 1/50~1/100	法勾配, 断面寸法, 横断勾配, 中心線, 計画断面, 施工断面	工事発注区間の代表的断面を作図する。
削	横断面図 縦1/100~ 1/500 横1/1,000 または1/2,500 (1/3,000) または縦横とも 1/200	計画断面 (太黒線, 代表断面のみ記入) 計画高水位, 掘削および築堤法勾配 (代表断面のみ記入) 掘削高, 法長, 施工断面, CA, BA, 官民境界線	図面の視方向は上流から下流をみる。 (左岸が左側) 掘削幅が一定の場合は, 同一図面の左上の最初の図に寸法を記入すればよい。幅が異なる場合は, その都度記入する。横断間隔が前後測点断面と近接する役杭断面は記載を必要としない。 左上から右下に向かって下流から上流とする。
	仮設図等		任意仮設の場合は, 「参考図書」を明記する。

2. 掘削

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
築堤	位置図 1/50,000	施工箇所, 工事名	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	平面図 1/1,000~ 1/2,500 (1/3,000)	施工形状, 延長, 土量, 土取場, 土捨場, 仮橋位置, 距離標, 測点, BM, 流向, 計画法線, (低水路, 堤防)	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 測点は下流から上流に向かって50m毎の追番号とし, 図面には測点 No. を記載する。
	縦断面図 縦1/100 横1/1,000 または1/2,500 (1/3,000)	測点, 単距離, 追加距離, 河床高, 地盤高, 平均低水位, 計画高水位, 計画堤防高, 計画河床高, 掘削高, 施工延長, 構造物の位置, 名称, 寸法 ○○年度施工高 当年度施工区間 (朱書)	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 その箇所に護岸工事がある場合, その天端および基礎高を図示のこと。
	標準横断面図 1/100	法勾配, 断面寸法, 堤防法線, 計画断面, 施工断面	工事発注区間の代表的断面を作図する。
	横断面図 縦横とも 1/200 1/100~1/500	計画断面 (太黒線, 代表断面のみ記入) 計画高水位, 掘削および築堤法勾配 (代表断面のみ記入) 築堤施工高, 土羽法長, 施工断面, CA, BA, 官民境界線	図面の視方向は上流から下流をみる。 (左岸が左側) 築堤幅が一定の場合は, 同一図面の左上の最初の図に寸法を記入すればよい。幅が異なる場合は, その都度記入する。横断間隔が前後測点断面と近接する役杭断面は記載を必要としない。
	仮設図等		掘削と同じ

3. 護岸, 水制

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
護岸 水制	位置図 1/50,000	施工箇所, 工事名	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	平面図 1/500~ 1/2,500 (1/3,000)	施工形状, 延長, 面積, 距離標, 測点, 流向, B.M., 計画法線, (低水路, 堤防)	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 測点は下流から上流に向かって20m毎の追番号とし, 図面には測点 No. を記載する。 ただし, 水制の横工は河岸から流心に, 縦工は下流から上流へ向かって追番号をつけるものとする。
	縦断面図 縦 1/100 横 1/500~ 1/1,000 または 1/2,500 (1/3,000)	測点, 単距離, 追加距離, 平均低水位, 計画高水位, 計画堤防高, 現堤防高, 計画護岸高, 施工護岸高, 基礎高, 地盤高, 計画河床高 ○○年度施工高 当年度施工区間 (朱書)	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。
	標準横断面図 1/50~1/100	法勾配, 断面寸法, 構造物断面寸法, 横断勾配, 法線, 計画断面, 施工断面	工事発注区間の代表的断面を作図する。
	横断面図 1/100~1/500	計画高水位, 掘削高, 土羽法長, 施工断面, C.A., B.A., 計画河床高	図面の視方向は上流から下流をみる。(左岸が左側) ただし, 起点から終点をみるものとする。 横断間隔が前後測点断面と近接する役杭断面は記載を必要としない。 根固工断面は, 層積を実線で乱積を破線で表示する。
	構造図 1/100以下	諸寸法	他の構造物との取り合い関係を明記する。
	仮設図等		掘削と同じ

4 . 構造物

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
構造物	位置図 1/50,000	施工箇所, 工事名	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	全体平面図 1/2,500 または 1/10,000	施工形状, 名称, 寸法, 距離標, 測点, BM, 流向	図面は下流を左に, 上流を右にすることを原則とする。
	平面図 1/100~1/500	施工形状, 名称, 寸法, 地質調査, 位置, 流向	
	縦断面図 縦 1/50~1/100 横 1/200~1/500	施工形状, 名称, 寸法	
	横断面図 1/50~1/200	構造形状, 施工高	
	一般図 1/20~1/200	構造形状, (標高, 水位および敷高等記入) 施工高, 土質柱状図	
	構造図 1/100以下	構造寸法, 平面図, 側面図, 断面図, 配筋図, 鉄筋表, 鉄筋加工図, 基礎杭詳細図	
	仮設図等		掘削と同じ

4 - 4 - 2 海岸関係設計図記載要領

1. 海岸堤防・護岸

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
海岸堤防・護岸	位置図 1/50,000	施工箇所, 工事名	図面は起点を左に, 終点を右にすることを原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	全体平面図 1/2,000 1/3,000	施工箇所, 延長, 名称, 測点, BM, 地質調査位置 海岸保全区域	図面は起点を左に, 終点を右にすることを原則とする。 図面には測点 No を記入する。
	平面図 1/500~1/1,000	施工形状, 名称, 寸法	
	縦断面図 縦 1/100 横 1/1,000	測点, 単距離, 追加距離, 地盤高, 朔望平均満潮位, 朔望平均干潮位, 計画潮位, 計画堤防高, 施工高, 名称, 寸法 ○○年度施工高 当年度施工区間 (朱書)	図面は起点を左に, 終点を右にすることを原則とする。
	標準横断面図 1/100	法勾配, 断面寸法, 横断勾配, 法線, 施工断面	工事発注区間の代表的断面を作図する。
	横断面図 1/200	計画潮位, 施工高, 施工断面, CA, BA	図面の視方向は起点から終点方向をみるものとする。 横断間隔が前後測点断面と近接する役杭断面は記載を必要としない。
	構造図 1/100以下	諸寸法	他の構造物との取り合い関係を明記する。
	仮設図等		河川掘削と同じ

2. 突堤および離岸堤

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
突堤 および 離岸堤	位置図 1/50,000	施工箇所, 工事名, 延長	図面は起点を左に, 終点を右にすることを原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	全体平面図 1/2,000~ 1/3,000	施工形状, 名称, 寸法, 測点, BM, 地質調査位置図 海岸保全区域	図面は起点を左に, 終点を右にすることを原則とする。 図面には測点 No. を記入する。
	平面図 1/500~ 1/1,000	施工形状, 名称, 寸法	
	標準横断面図 1/100	朔望平均満潮位, 朔望平均干潮位, 施工断面, 施工高, 計画天端高, 計画基礎高, 計画潮位	工事発注区間の代表的断面を作図する。
	横断面図 1/200	計画潮位, 施工高, 施工断面, BA	図面の視方向は起点から終点方向をみるものとする。横断間隔が前後測点断面と近接する役杭断面は記載を必要としない。 上から下に起点から終点とする。
	構造図 1/100以下	諸寸法	他の構造物との取り合い関係を明記する。
	仮設図等		河川掘削と同じ

4 - 4 - 3 砂防関係

1. 砂防ダム, 流路工

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
砂防ダム・流路工	位置図 1/50,000 または1/25,000	施工箇所, 工事名	
	平面図 1/500~1/1,000 (1/2,000~1/3,000)	崩壊地位置, 大きさ, 既設物, 測点, 貯砂地区, 施工形状, BM, 指定区域	
	縦断面図 縦1/100~1/200 横1/500~1/1,000 (1/2,000~1/3,000)	岩盤露出箇所, 推定貯砂線 (HWL) 及び勾配, 計画河床勾配 (流路工の場合), 構造物の標高, 天端並びに堤敷, 現河床高	下流を左に, 上流を右に
	横断面図 1/100または1/200	計画断面 (太線) 官民境界線	図面の視方向は下流から上流をみる (左岸が右側) 原則: たて・よこ同縮尺とする。
	構造図 1/100または1/200	施工形状, 名称, 寸法, 地盤線	
	仮設図等		

2. 地すべり防止施設, 急傾斜地崩壊防止施設

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
地すべり防止施設・急傾斜地崩壊防止施設	位置図 1/50,000	施工箇所, 工事名	
	平面図 1/500~1/1,000 (1/2,000~1/3,000)	既設物, 将来計画, 測線, 沼, 湿地帯, 崩壊位置記入, 施工形状, BM, 指定区域	
	横断面図 1/100, 1/200, 1/500		
	構造図 1/20, 1/30, 1/100, 1/200	平面図, 横断面図, 施工図とも, それぞれ寸法並びに構築材を記入	
	地質断面図 1/200, 1/500	地質の変化, さく孔方向, 長さ, 径, 傾斜角度を記入	
	仮設図等		

4 - 4 - 4 水資源ダム関係

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
ダム本体	位置図 1/50,000程度	施工箇所, 工事名	
	計画概要図 1/2,500		図面は北を上にする
	平面図 1/500または 1/1,000程度	ブロック割, 監査廊, 排水設備及び仮排水路, 仮締切等	
	上流面図 1/500または 1/1,000	ブロック割, 監査廊, 排水設備及び仮排水路, 仮締切, グラウト孔等	
	下流面図 1/500または 1/1,000	"	
	標準横断面図 1/500または 1/1,000	同上並びに収縮継手, 施工継手	
	基礎掘削並びに堤体横断面図 1/500または1/1,000	C.A, B.A	中心線に対し, 直角のものとする
	構造図 各図		構造図は, おのおの明瞭に関連できるよう記載する
仮設備	一般平面図 1/1,000	仮設備の位置	1/1,000で, ダム工事全般からみて, 関連性が困難と思われるものについては, 1/50,000位置図を必ず添付する。

4 - 4 - 5 道路関係

1. 道路改良

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
工 事 用 道 路 お よ び 道 路 改 良 工 事	位置図 1/50,000	工事名, 施工位置, 橋梁延長, 幅員, 起 終点道路	図面は起点を左に, 終点を右にすること を原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	平面図 1/1,000 1/500~1/1,000	工事起終点, 中心線および測点, 橋台位 置形状, 橋脚位置形状, 河川流下方向, 堤防法線斜角, 取付道路 (仮BM) の位置および高さ, 排水工の 種別・延長	図面は起点を左に, 終点を右にすること を原則とする。 測点は起点から終点に向かって20m毎に 追番号とし, 図面には100m毎に測点 No. を記載する。 用排水工には流向を矢印で表示する。
	縦断面図 縦1/100 または1/200 横1/1,000	工事起終点, 測点, 単距離, 追加距離, 地盤高, 計画高, 切・盛土高, 縦断勾配, 勾配変化点, 地盤線, 土層推定線, 計画 線, 構造物の位置・形状, 寸法, 名称, 平面曲線の線形諸元, 縦断曲線長および 半径, 横断こう配すりつけ図およびすり つけ率	図面は起点を左に, 終点を右に作図する ことを原則とする。 平面図と縦断面図を併記する場合は, 上 段に平面図, 下段に縦断面図を作図する。
	標準横断面図 1/50~1/100	中心線, 地盤線, 計画断面側, 員寸法, 横断勾配, 法勾配, 側溝, 側道, 擁壁, 舗装構成, 防護さく, 設計諸元	工事発注区間及び設計区間の代表的断面 を作図する。
	横断面図 1/100 または 1/200	中心線, D.L, 測点番号, 計画高, 地盤 高, 現況地盤線, 計画断面および寸法, 横断勾配, 土層推定線, 用地境界線およ び中心線からの距離, CA, BA, 法長	同一図面内の幅員が一定の場合は, 最初 の断面図に寸法を記入すればよい。幅員 や横断勾配が異なる場合は, その都度記 入の事。路床置換がある場合は道路セン ターからの左右幅員を記入。測点断面と 近接する役杭断面は記入しなくてよい。
	構造図 1/10~1/100	一般図(平面, 縦断, 標準横断, 構造線, 寸法線位置, 斜角, 高さ, 設計条件, そ の他) 配筋図(構造線, 鉄筋, 寸法線, 鉄筋表) 特殊のり面工展開図	管渠, 函渠, 擁壁, 排水構造物等の設置 位置, 方向, 設置高さ等を明記する。他 の構造物との取合い関係を明記する。
仮設図等			

2. 橋 梁

工種	図面名称および縮尺	記 載 事 項	注 意 事 項
橋 梁 下 部 工 事	位 置 図 1/50,000	工事名, 施工位置, 橋梁延長, 幅員, 起 終点道路	図面は起点を左に, 終点を右にすること を原則とする。 引出し線等は朱線で表示する。
	平 面 図 1/1,000	工事起終点, 中心線および測点, 橋台位 置形状, 橋脚位置形状, 河川流下方向, 堤防法線, 斜角, 取付道路 (仮BM) の位置および高さ, 排水工の 種別・延長 地質調査位置	図面は起点を左に, 終点を右にすること を原則とする。測点は起点から終点に向 かって20m毎の追番号とし, 図面には測 点Noを記載する。 用排水工には流向を矢印で表示する。
	一 般 図 1/500~1/50 構 造 一 般 図	計画水位, 平均低水位, 河川断面, 支間, 基礎および寸法, 橋脚橋台の形状および 寸法桁下空間, 設計条件, 地質図, 柱状 図, 推定岩盤線	図面は起点を左に, 終点を右にすること を原則とする。 平面図と縦断面図を併記する場合は, 上 段に平面図, 下段に縦断面図を作図する。
	構 造 図 1/100~1/50	構造寸法, 角度, 平面図, 測面図, 断面 図, 配筋図, 鉄筋表, 鉄筋加工図, 基礎 杭詳細図	
	仮 設 図 等		
橋 梁 上 部 工 事	位 置 図 1/50,000	橋梁下部工に同じ。	橋梁下部工に同じ。
	平 面 図 1/1,000	橋梁下部工に同じ。	橋梁下部工に同じ。
	一 般 測 面 図 1/100	計画水位高, 平均低水位河川断面, 桁下 高, 橋脚橋台, 橋体の構造図および寸法 線, 設計条件, 支間, 高欄, 親柱, 縦断 勾配, 横断勾配	
	一 般 断 面 図 1/50	床版, 舗装厚, 横断勾配, 高欄, 親柱, 桁高, 主桁間隔等	
	構 造 図 1/50	構造詳細図, 沓, 排水施設, 伸縮継ぎ手, 鋼材表, キャンバー, 座標図	
仮 設 図 等			

3. 舗装

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
道路 舗装 工事	位置図 1/50,000	施工区間延長, 実施延長	
	平面図 1/1,000 または1/500	工事起終点, 延長, 測点, 曲線線形諸元, BMの位置, 構造物位置, 寸法	構造物位置, 寸法は必要なもののみ記載する。
	縦断面図 縦1/100~1/200 横1/1,000	道路改良工事と同じ	道路改良工事と同じ
	標準横断面図 1/50または 1/100	”	”
	横断面図 1/100または 1/200	”	バイパス等で幅員が一定の場合は代表の横断面図でよい。その他は道路改良工事と同じ。
	構造図	”	道路改良工事と同じ
	目地割り図 縦1/200 横1/2,000	膨張目地, 収縮目地, 突合せ目地, 縦目地	交差点の目地割り図は1/100程度とする。

4 - 4 - 6 トンネル関係

工種	図面名称および縮尺	記載事項	注意事項
トンネル工事	位置図 1/50,000	工事名, 施工位置, 延長	道路改良工事と同じ。
	平面図 1/1,000	工事名, 工事起終点, 中心線および測点, トンネル延長, 各加背延長	道路改良工事と同じ。
	縦断面図 縦 1/100 横 1/1,000	トンネル延長, 各加背延長, その他道路改良工事と同じ。	道路改良工事と同じ。
	地質縦断面図 縦 1/100 横 1/1,000	縦断線形, 平面線形, 測点, 計画高, 岩種区分, 地山等級, 二次覆工厚, 吹付コンクリート厚, ロックボルト, 鋼アーチ支保工, 区間長, 掘削工法, 地質名, 岩石名, 地山弾性波速度, 地質・岩盤状況, 湧水	
	標準断面図 1/50~1/100	覆工, 舗装, 側溝, 幅員構成, 建築限界	
	横断面図 1/100	道路改良工事と同じ。	
	坑門工詳細図 1/50~1/100	正面図, 平面図, 側面図, 配筋図, 鉄筋表等	
	支保工詳細図 1/50~1/100 加背割図 1/50~1/100 排水工関係図 鉄筋加工図 防水工図	諸寸法	
	仮設備配置図		電力設備, コンプレッサー設備, プラント設備等

4 - 5 その他

1. 汎用記号の解説

1) レディミクストコンクリート

普通 21 - 8 - 40 N

コンクリートの種類による記号

コンクリートの種類	粗骨材	細骨材	記号
普通コンクリート	砂利，碎石又は高炉スラグ粗骨材	砂，砕砂又は各種スラグ細骨材	普通
軽量コンクリート	人工軽量粗骨材	砂，砕砂又は各種スラグ細骨材	軽量1種
	人工軽量粗骨材	人工軽量細骨材又は人工軽量細骨材に一部砂，砕砂又は各種スラグ細骨材を混入したもの	軽量2種
舗装コンクリート	砂利，碎石又は高炉スラグ粗骨材	砂，砕砂又は各種スラグ細骨材	舗装

呼び強度 (N/mm²)

スランプ (cm)

粗骨材の最大寸法 (cm)

セメントの種類による記号

種類	記号	種類	記号
普通ポルトランドセメント	N	早強ポルトランドセメント	H
" (低アルカリ形)	N L	" (低アルカリ形)	H L
超早強ポルトランドセメント	U H	中庸熱ポルトランドセメント	M
" (低アルカリ形)	U H L	" (低アルカリ形)	M L
低熱ポルトランドセメント	L	耐硫酸塩ポルトランドセメント	S R
" (低アルカリ形)	L L	" (低アルカリ形)	S R L
高炉セメントA種	B A	シリカセメントA種	S A
" B種	B B	" B種	S B
" C種	B C	" C種	S C
フライアッシュセメントA種	F A		
" B種	F B		
" C種	F C		

2) 鋼材類

記号		対象品種	アルファベットの意味	数字の意味
SKK	400	鋼管杭	S : Steel K : KOKAN K : KUI	引張強さ 400N/mm ² 以上
	490			" 490 "
SKY	400	鋼管矢板	S : Steel K : KOKAN Y : YAITA	" 400 "
	490			" 490 "
STK	400	一般構造用管 炭素鋼	S : Steel T : Tube K : KOZO	" 400 "
	490			" 490 "
	他			
SS	400	一般構造用材 圧延鋼	S : Steel S : Sheet	" 400 "
	490			" 490 "
	他			
SM	490A	溶接構造用材 圧延鋼	S : Steel M : Marine A : 衝撃値規定なし B } " 規定あり C } Y : Yeild	" 490 "
	490B			" 490 "
	490C			" 490 "
	490YA			" 490 "
	490YB			" 490 "
	他			
SY	295	熱間圧延鋼矢板	S : Steel Y : YAITA	降伏点295N/mm ² 以上
	400			400N/mm ²

3) たわみ性防護柵

Gr - B 2 - 4 E

防護柵形式記号

Gr : ガードレール Gc : ガードケーブル
Gp : ガードパイプ Gb : ボックスビーム

種別区分

道路の区分	設計速度 (km/h)	一般区間		重大な被害が発生するおそれのある区間		新幹線などと交差または近接する区間	
		種別	衝撃度(kJ)	種別	衝撃度(kJ)	種別	衝撃度(kJ)
高速自動車専用道路	100以上	A	130	SB	280	SS	650
	80						
	60以下			SC	160	SA	420
その他道路	60以上	B	60	A	130	SB	280
	50以下	C	45	B ^{注)}	60		

注) 設計速度40km/h以下の道路では、C,Cm,Cpを使用することができる。

積雪深ランク

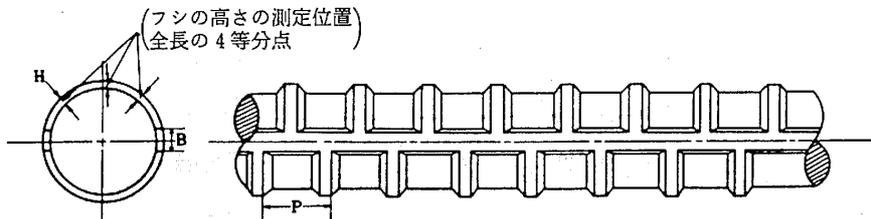
積雪ランク	5年再現最大積雪深
1	0.5mを超え1m以下(無対策)
2	1mを超え2m以下
3	2mを超え3m以下
4	3mを超え4m以下
5	4mを超え5m以下

支柱間隔を示す数字(m)

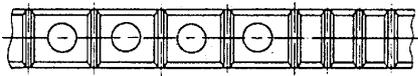
埋込み区分

E : 土中埋め込み用 B : 構造物設置用

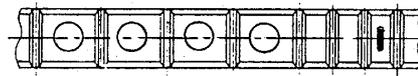
4) 鉄筋コンクリート用異形棒鋼



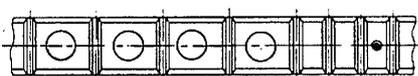
SD-295A



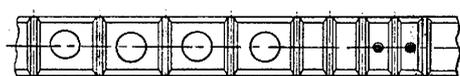
SD-295B (溶接用)



SD-345



SD-390



2. 工事番号の付け方

県河局 - A 01号

各事業費目における略称

主な事業費目の略称	費目	略称
[急傾斜地]	急傾斜地崩壊対策事業費	急崩
[海岸]	海岸高潮対策費	高潮
[公園]	公園整備促進事業	関公都公
[下水道]	下水道整備促進事業	関下
[災害関連]	河川災害復旧助成事業費	助成
	災害関連緊急砂防事業費	災緊急砂防
[道路]	一般国道道路改良事業	国道改

	地方道橋梁整備事業（一般）	地橋架
	県単道路調査費（一般）	県道調
	県単舗装新設費（一般）	県舗新
[街路]	道路改築費	都街改
[河川]	一般河川改修事業費	一般
	県単局部改良費	県河局
[砂防]	荒廃砂防事業費	荒廃
[用地]	用地取得等推進対策事業	用推

（工事管理総合システム - 事業コード表）

事業別一連番号

発注区分

区分	名 称	区分	名 称	区分	名 称
0	工事請負	6	補 償	A	合併工事請負
1	＂	7	＂	B	合併委託
2	委 託	8	その他	C	合併用地
3	＂	9	未契約	D	合併補償
4	用 地			E	合併その他
5	＂			F	合併未契約

発注区分別一連番号（工区）